

【経営戦略】 令和4年度第1回刈谷市公営企業経営戦略等策定委員会での主な質問事項

	ページ		内容	回答	意見書
	旧	新			
1	4	4	「下水道接続人口と使用料収入」のグラフについて、H28は企業会計移行の打ち切り決算で使用料が減っているかたちになっていると思うが、説明を加えるか対応する使用料収入分をH28に含めてはどうか。	P4「下水道接続人口と使用料収入」のグラフに対応する使用料収入分をH28に含め、そのことを補足する説明を追記しました。	
2	5～7	5～6	雨水施設について雨水対策課で実施とあるため、雨水職員の内容も記載してはどうか。	P5～P6の「（1）組織体系」と本文に雨水対策課のことについて追記しました。 合わせて、「5 組織の概要」全体の構成や記述を見直しました。 雨水対策課は下水道事業だけでなく、その他も含めた総合的な治水対策事業を実施しているため、そのことを注記しました。	
3	5～7	5～6	会議の中でも触れさせていただきましたが、人件費の問題から職員の数が減ってきたり、平均年齢が下がって若者にシフトしていくことは大変良いことだと思います。しかし、OJTの観点からみると61歳～（再雇用）の方に経験談を踏まえた指導を仰ぐことも現役の方より安い人件費でできるので職員の年齢構成については今一度見直しをしてもいいのかもしれない。	P27「4組織の見通し」で示すとおり、技術及び資格を保有した職員が長期的に在籍できる人員配置について、継続的に人事部局と調整し、技術継承が行える人員配置に努め、組織力の強化を図るとともに、P39「人材育成」で示すとおり、「OJTなどによるベテラン職員からの技術継承」に努めます。 なお、現在も退職した職員で引き続き再任用でお願いし、再任用の終了後も会計年度任用職員としてお願いしている職員がおります。	○
4	11～23	11～23	11ページ以降の個別の指標を比較している部分について、西三河平均が他の平均に比べて大きく差があることが多い。同じような地理的条件の刈谷市と比べても差があるのは何か要因があるのか。	西三河は刈谷市と比較して新しく整備された地域が多いため、分流式が多いことや老朽化などによる不明水の流入が少ないと考えられますので、その影響が出ていると思われます。	
5	12～23	12～23	グラフは目盛りのスケールにより見え方が大きく異なります。例えば、100%を目安にする指標では「有収率」「経費回収率」に対して「下水道接続率」はスケールが大きいため、他団体と比べより低水準である印象を受けますので、目的によりスケールをある程度合わせることも一案かと思われます。	P12「下水道接続率」、P16「有収率」、P21「経費回収率」のスケールを合わせるよう修正しました。	○

【経営戦略】 令和4年度第1回刈谷市公営企業経営戦略等策定委員会での主な質問事項

	ページ		内容	回答	意見書
	旧	新			
6	19	19	刈谷市の流動比率が他の平均と比べてかなり低い理由は何かあるのか。	「企業債対事業規模比率」が他の平均と比べてかなり高いことから、流動負債となる今年度償還分の企業債の額も多いと考えられるため、そのことが他団体よりも流動比率が低い要因となっていると考えられます。 また、繰入金は事業の運営ができる範囲とし、多くなり過ぎないように調整して繰入れていることから、手持ち資金に余裕がないことも要因と思われます。	
7	22	22	当市の「汚水処理原価」が比較団体と比べ大きく安価となっている理由をお教えてください。現状、経費削減の効果が既に反映されているのであれば、今後における経費回収率の改善は収入面での検討が重要となります。	刈谷市の汚水処理原価を「汚水維持管理費」と「汚水資本費」に分けて見ると、両方とも相対的に低くなっているため、合計した汚水処理原価も低い水準となっています。 「汚水維持管理費」はすべての汚水処理を流域下水道で処理していることから、比較的低くなっていると考えられます。 「汚水資本費」は減価償却費に対する長期前受金の割合が多いため低くなっていると考えられます。 長期前受金の中では、「他会計繰入金」が他団体より割合が大きいため、過去の大規模整備において他団体に比べて市費を多く投入したことが長期前受金が多くなっている要因と思われます。	○
8	22	22	汚水処理原価が安いのは消費者としてはうれしいですが、赤字の補填として一般会計から多額の援助を受け続けるのには少し不安があります。そもそも税金を市民のために使っただけのことはありがたいですが、下水道部門だけでなく他の部門にも一般会計の補填をしてほしいところが多々あります。したがって、下水道使用料の現状をHP他様々な媒体を使って市民に訴えかけ、近隣市町村並みに価格を改定することもありだと思えます。	ご意見のとおり現在の下水道事業は赤字分を一般会計から多額の繰入金（税金）で賄っているため、そのことは市の他の施策にも影響を与えていることとなります。 繰入金を減らすために使用料を改定（値上げ）することはひとつの方法ではありますが、使用料の値上げは市民に大きな負担をかけることであるため、下水道事業としてできる経営改善策があるのであればまずはそれを先に実施するべきであると考えております。 現在検討している施策を実施すれば、P36「（5）経費回収率」で示しているように経営状況は改善する見込みであるため、改善結果を踏まえた経営状況から適正な使用料の設定について、P40で示すとおり外部有識者等で構成する審議会で検討していきたいと考えております。 また、P39「住民サービス向上」で示しているとおり、下水道事業について知ってもらうため、広報等の拡充によるイメージアップや情報発信に努めます。	○

【経営戦略】 令和4年度第1回刈谷市公営企業経営戦略等策定委員会での主な質問事項

	ページ		内容	回答	意見書
	旧	新			
9	23	23	使用料単価の指標は高いほどよいとなっているが、市民目線だと安い方がいいと思うが、指標として入れるのは適切なのか。	総務省が公表している経営指標にあるため経営戦略にも入れており、経営側の目線からは単価が高い方がいいものとなります。使用料単価が汚水処理原価より高ければ使用料収入で汚水処理費を賄えていることとなります。	
10	30	30	「主な投資計画」の汚水整備が約20億円となっており、市街化調整区域のケース①の整備費が約5億円となっているが、大規模整備場分だけで15億円を見込んでいるということか。	その通りです。	
11	30	30	「主な投資計画」の汚水整備の費用が約20億～となっている部分が、今後の見通しで実際いくら見込んでいるのか不明瞭なため、わかる表示方法を検討してほしい。	P30「主な投資計画」の汚水整備の費用欄の「～」を削除し、費用は見込んでいない旨の説明を表の下部に追記しました。	
12	31	31	基準外繰入金の上限やルールのようなものはないのか。基準外繰入金が今後も十分もらえる保証はあるのか。	現時点では明確な基準や制限などは示されていませんが、繰入金がないと事業がなりたたないため、財務部局と調整して必要な分を繰入れております。今後も同様と思われまのでP31の財政計画に「財務部局と調整する」旨を追記しました。	
13	33～	33～	グラフは収支均衡になっているため赤字が伝わりにくい。会計に明るくない一般の方が見たときにもわかりやすくしていただきたい。	P33からの「4 今後の収支見通し」について、グラフや記述内容の追加や修正を行い、赤字等を強調するよう修正しました。	
14	—	—	資料からは市民としてどのような協力ができるか分からない。市民にできることなどが具体的に伝わらないため、伝えるものにしてもらいたい。	今回作成している経営戦略は情報量が多く、一般には馴染みのない分野であるため、市民にわかりやすいものになっているとは言えないことからの意見とします。作成については、国から示されている様式やガイドライン等に沿う形を基本として、委員の皆様から意見をいただきながら、少しでもわかりやすくなるよう努めておりますのでご理解ください。	
15	—	—	なぜ使用料が安いのか、なぜ高くなるのかを伝えるものにしてほしい	今後、経営戦略の進捗状況や内容などを広報する際には、より分かりやすいものとなるよう努めます。	

【経営戦略】 令和4年度第1回刈谷市公営企業経営戦略等策定委員会での主な質問事項

	ページ		内容	回答	意見書
	旧	新			
16	—	—	現状を分かってもらって、現状の厳しさを伝えるものにしてほしい。	P33からの「4 今後の収支見通し」について、グラフや記述内容の追加や修正を行い、赤字等を強調するよう修正しました。 ただし、計画期間では経営状況が改善していく見込であることから、厳しさを伝える表現が弱くなってしまっている部分はあると思います。	
17	—	—	皆さんから出た意見を総合すると、メッセージをどう出していくか、資料の分かりやすさが重要である。 経営的に難しい状況でも経営できているのは繰入金があるからということ、他市との比較で差がある理由などが分かれば記載した方が良いのではないかと思います。	P12以降の各指標で、理由がわかるものについては説明を追加しました。 P33からの「4 今後の収支見通し」について、グラフや記述内容の追加や修正を行い、赤字等を強調するよう修正しました。	